

富谷高校だより 第53号



Member of



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

UNESCO
Associated
Schools

発行：宮城県富谷高等学校

平成27年 9月14日発行

〒981-3341 黒川郡富谷町成田2丁目1-1

TEL 022-351-5111

FAX 022-351-5112

吹奏楽部 県コンクール金賞 !!

8月6日(木)に行われた「全日本吹奏楽コンクール第58回宮城県大会」高等学校小編成の部において、本校吹奏楽部が2年連続『金賞』を受賞しました。今年の県大会で金賞を受賞した団体は、わずかに5校のみです。曲目は「ミュージカル『レ・ミゼラブル』より」でした。毎日の練習をとおして培った実力を遺憾なく発揮した、圧巻の演奏でした。吹奏楽部はすでに新体制で走り始めました。新部長の古川玲音さん(富谷中・2年)からコメントをいただきましたので紹介します。



私たち吹奏楽部は、3年生を含む33名で、全日本吹奏楽コンクール宮城県大会に出場しました。結果は、昨年に続き金賞でした。残念ながら、東北大会への出場はかないませんでした。精一杯の演奏をすることができたと感じています。

現在は3年生が引退し、1・2年生でマーチングの練習をしています。「とみやマーチングフェスティバル」への出場やマーチングコンテストでの入賞を目指しています。顧問をはじめとする先生方、保護者の方々のおかげで活動できていることに感謝し、これからも頑張っていきます。

英語弁論大会で「奨励賞」

宮城県高等学校国際教育研究会が主催する「第35回高校生英語弁論大会宮城県代表選考会」において、本校から出場した近藤由紀さん(宮床中・2年)が「奨励賞」を受賞しました。演題は「On the same earth」、地球規模で広がる貧困問題について堂々と論じました。近藤さんは中学3年生の時にも英語の弁論大会に出場した経験があり、機会があればまた出てみたいと思っていたそうです。来年こそは最優秀賞をねらいたいとの抱負をいただきました。

受験生の夏到来

8月10日(月)から12日(水)の日程で、3年生の進学希望者対象の「夏期セミナー(学習合宿)」が、富谷町の東北自治総合研修センターで行われました。今年は48名の生徒が参加し、のべ25時間にわたって基礎学力を確かなものとするべく、真剣に学び抜きました。向学の志は、酷暑に負けず熱く燃えていました。



TMYアルカス大活躍

8月28日(金)の夕方、「富谷(TMY)アルカス」の活動が行われました。これは「黒川地区学校警察連絡協議会」提携行事の一環として本校生徒会が行っている奉仕活動です。当日は執行部の生徒9名が、イオン富谷店入り口で交通安全を訴えるチラシなどを配りました。安心安全な地域作りの一翼を担うために頑張ります。



全国総文祭に出場

7月下旬に滋賀県で行われた「第39回全国高等学校総合文化祭」器楽・管弦楽部門に、本校弦楽合奏部が出場しました。宮城第一高校と合同でオーケストラを編成し、県代表として演奏してきました。平成29年には、宮城県を舞台に全国高総体(南東北インターハイ)と全国総文祭(みやぎ総文2017)がどちらも開催されます。全国の高校生に元気を発信すべく、富高生として、開催県として、ますます文武両道に励んでいきましょう。



カンボジア研修報告

富谷高校は、今年からユネスコスクールとして活動を始めました。ユネスコスクールの最大のメリットは、海外とつながることができることです。本年4月、(公社)日本ユネスコ協会連盟から「カンボジアスタディーツアー」の募集がありました。本校から応募した2年1組の角田 陸さん(東向陽台中)が全国10人の代表に選ばれ、この8月にカンボジアを訪問しました。角田さんに寄稿していただきました。

「カンボジア」と聞いて皆さんは、何を思い浮かべるでしょうか。「発展途上国」「アンコールワット」というところでしょうか。日本と同じアジアにある国なのに、知っていることは少ないですね。僕も行くまではそうでした。

アンコールワットがあるシェムリアップ州は、発展途上国とは思えないほど華やかでした。今回のツアーには農村の訪問も含まれていました。郊外の農村部には水道はおろか、電気も通っていませんでした。人々は高床式の家に住み、稲作をして生活しています。そこで多くの人と出会いました。農村の人々は楽しそうにお話をしてくれて、一緒に作業をした時も愉快そうに笑っていました。しかし、すべてが手作業の日常。生活は苦しくないのか…? どうして笑っていられるのか、その答えは簡単でした。「食うに困らなくて、家族が健康なら、それでいい」。彼らはこう話してくれました。物資が豊かでなくても、心は満ちあふれている。それに比べて僕たちはどうだろうか。豊かな国に生まれ、はるかに恵まれた環境で暮らしているはずなのに、心はずっと貧しくなっているのではないか?

「カンボジアについて知る」ということ。それは、今の自分たちの生き方を見つめ直すきっかけになります。同じアジアの仲間として、少しでもカンボジアに興味を持っていただけたら幸いです。

「カンボジアについて知る」ということ。それは、今の自分たちの生き方を見つめ直すきっかけになります。同じアジアの仲間として、少しでもカンボジアに興味を持っていただけたら幸いです。



☆角田さんの帰国報告は、「日本ユネスコ協会連盟」のHPにも掲載されています。

富高生かがやく！樹咲祭！

9月4日・5日と「第21回樹咲祭」が、好天のもと開催されました。生徒会執行部や実行委員会が中心となり、早くから企画・準備にあたってきました。「21st freedom～自由に祭れ！～」のテーマのもと、西中庭をイベントに使用するなど、これまでにない新たな歴史を開く樹咲祭になりました。文化部の発表も、クラス参加の模擬店等も、富高生らしさが輝いていました。一般公開日の来場者は、予想を大きく上回り1000名以上。実行委員長の大友一聖さん(台原中・3年)からコメントをいただきました。

皆さん、今年度の樹咲祭はいかがだったでしょうか。委員長としてはわずかなことしかできませんでしたが、皆さんの協力のおかげで、本当に歴代最高といえる盛り上がりを見せ、最高の思い出にすることができたと思います。

本当にたくさんの支えや協力があって成功した樹咲祭です。ありがとうございました。



《展示作品紹介》荒木十畝「四季花鳥図」模写

毎年、樹咲祭に大作を発表している美術部。今年には花鳥画に挑戦しました。外川悠帆さん(東向陽台中・3年)と成澤沙紀さん(向陽台中・2年)が描いた「愛鳥週間ポスター」は、宮城県代表として今年全国コンクールに出品されるなど部員は実力者ぞろい。美を求めて妥協をしない創作活動の結晶が、花鳥図には輝いていました。「部員一人一人が自分らしい作品づくりをし、入賞を目指して日々努力しています」(外川さん)。県展での活躍にも期待がもてます。